

# 日高変成帯，新冠川地域のSタイプ花崗岩類の多様性

<志村俊昭>

七ッ沼カール

エサオマントッタベツ岳



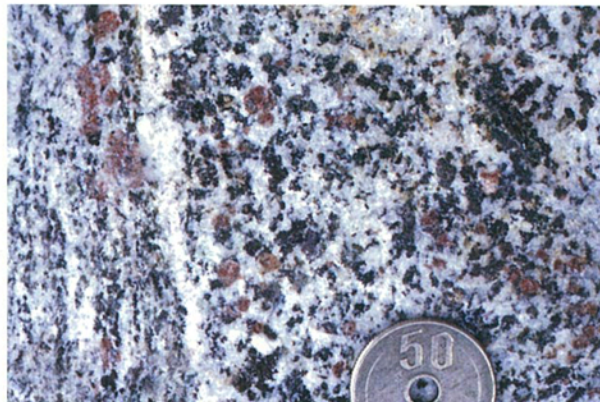
1. 6月上旬の新冠川上流地域。エサオマントッタベツ岳南西面(写真では頂上より左側)に、Sタイプ花崗岩類が広く分布する。遠方の七ッ沼カールが美しい(ナメワッカ岳分岐ピーク付近より北方を望む)。



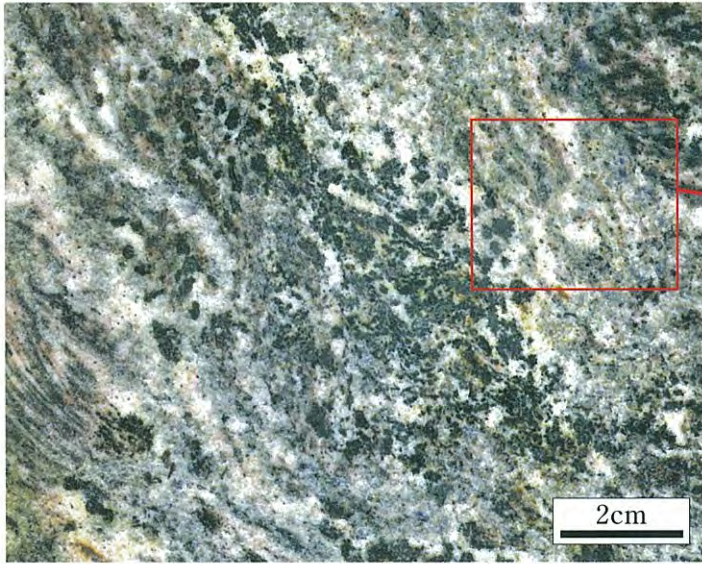
2. 晩夏のエサオマントッタベツ岳南西面。雪渓がすべて溶けると、花崗岩の連続露頭が現れる。この写真内の露頭は口絵3~6のようなザクロ石-斜方輝石トータル岩や同質のミグマタイトである。



3. ザクロ石-斜方輝石トータル岩中には、砂泥質グラニュライト(P)、塩基性グラニュライト(M)、超塩基性岩(U)など多様な包有物が見られる。



4. ザクロ石-斜方輝石トータル岩のクローズアップ。左3分の1は塩基性変成岩包有物周囲にできた流理性的の面構造である。

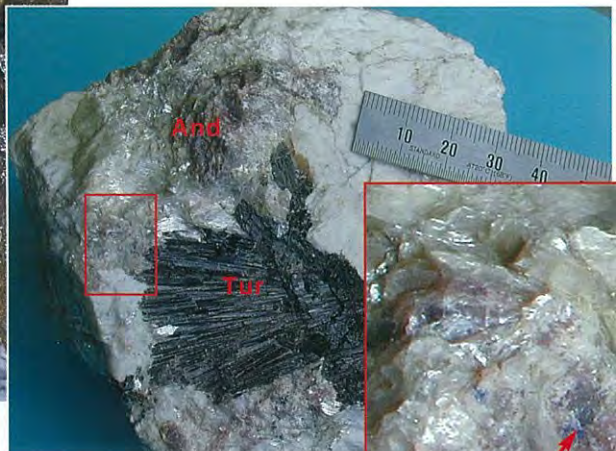


5. 砂泥質グラニュライト包有物の部分融解とマグマへの同化作用による不均質な産状。スミレ色の堇青石 (Crd)が美しい。Opx斜方輝石, Grt柘榴石。



7. 超塩基性岩包有物(U)の周りには、フログサイト (Phl)-Mg 堇青石 (Mg-Crd)-ブロンザイト (Opx) からなる特殊な岩相がみられる。

6. 砂泥質グラニュライトの周囲にザクロ石の巨晶が形成されている。



8. ザクロ石-斜方輝石トータル岩はマイロナイト化による変形を被っている。そのマイロナイト面構造を切断し、紅柱石 (And)-電気石 (Tur)を伴う優白脈がみられることがある(左, 中)。紅柱石中には青紫色のコランダム (Crn)を産することがある(右)。